

## 水道事業会計（企業会計）

区分	歳入	歳出
収益的収支	9億5,451万円	10億743万円
資本的収支	1億605万円	3億9,208万円

\*収益的収支…水道事業を運営するための収支を表したもの  
\*資本的収支…配水池の建設や管路の整備など、資産の整備と企業債償還金などの支出、その財源となる収入の収支を表したもの

水道事業会計（企業会計）は、地方公営企業法に基づき設けた水道事業を行う特別会計で、民間企業と同様の経理や決算をします。

## 特別会計

特別会計名	歳入	歳出
国民健康保険	55億84万円	50億8,185万円
後期高齢者医療	3億8,382万円	3億7,662万円
介護保険	36億2,238万円	35億8,031万円
土地取得	3万円	3万円
農業集落排水事業	1,167万円	1,144万円

特別会計とは、市が特定の事業を行うために、一般会計と区別して設けるもので、特別会計ごとに決算をします。

# 平成23年度 決算報告

## 生活に密着した安全安心事業を実施

経済の低迷、個人所得や雇用の減など引き続き厳しい社会状況の中、個人住民税は前年度に引き続き減少しましたが、相良消防庁舎や山の手幹線の整備、津波災害の緊急対策など市民生活の安全安心を図るため、生活に密着した安全安心事業を実施しました。  
問い合わせ 財政課 内山 ☎0054

### ③ 実質公債費比率



市（一部事務組合などを含む）の借金の返済額の大きさの割合を示すもの。市の数値は、19.3%で基準内ですが、借金をする場合に県の許可が必要となる規定値の18%を超えています。また、県内最下位の比率であるため、計画的な財政運営が必要です。

### ④ 将来負担比率



市の借金返済や将来支払わなければならない負担金などの残高の割合を示すもの。この比率が高いほど、将来、財政が圧迫される可能性が高いこととなります。

### ⑤ 資金不足比率



事業会計の料金収入に対する資金不足（赤字額）の割合で、経営状況の深刻度を示すもの。市の水道事業と農業集落排水事業については、資金不足はありません。

## 牧之原市の財政判断

北海道夕張市の財政破綻などを受けて、毎年度、財政が健全であるかどうかを判断する基準が定められました。23年度決算の財政状況は、財政状況が大変厳しい中ではありましたが、事業の選択や経費節減に努めた結果、「全ての指標で基準の範囲内である」と判断されました。ただし、事業のための借入額が多額のため、今後も計画的な事業の実施が必要です。

\*各判断指標は国で定めた数値

### ① 実質赤字比率

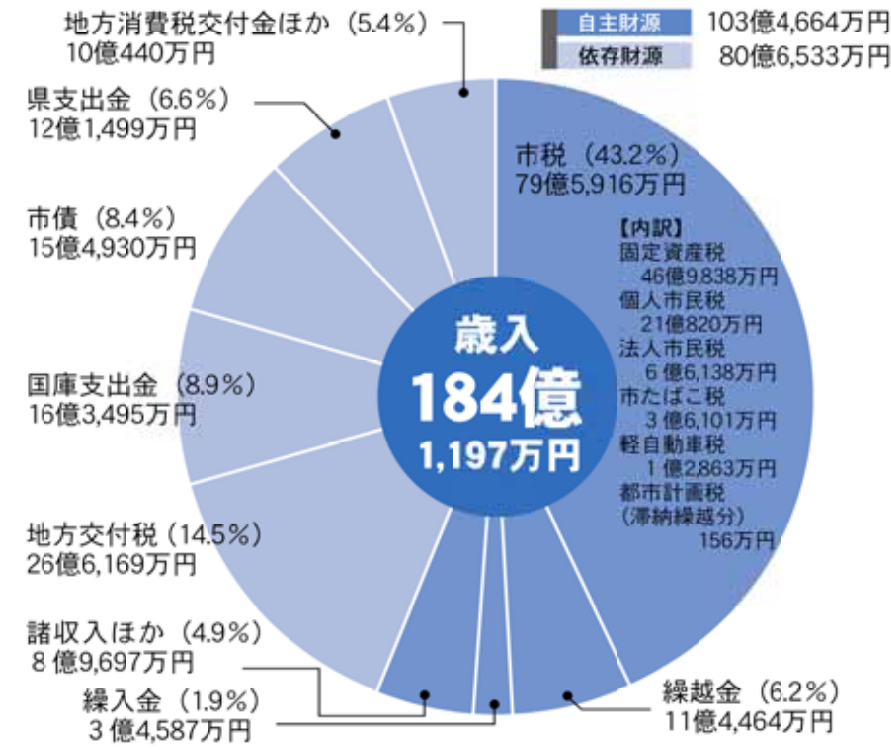


福祉、教育、まちづくりなどを行う市の普通会計（一般会計に土地取得特別会計を加えた会計）の赤字の程度を表し、財政運営の悪化の度合いを示すもの。本市は収入総額が支出総額を上回る黒字なので、赤字の比率は出てきません。

### ② 連結実質赤字比率

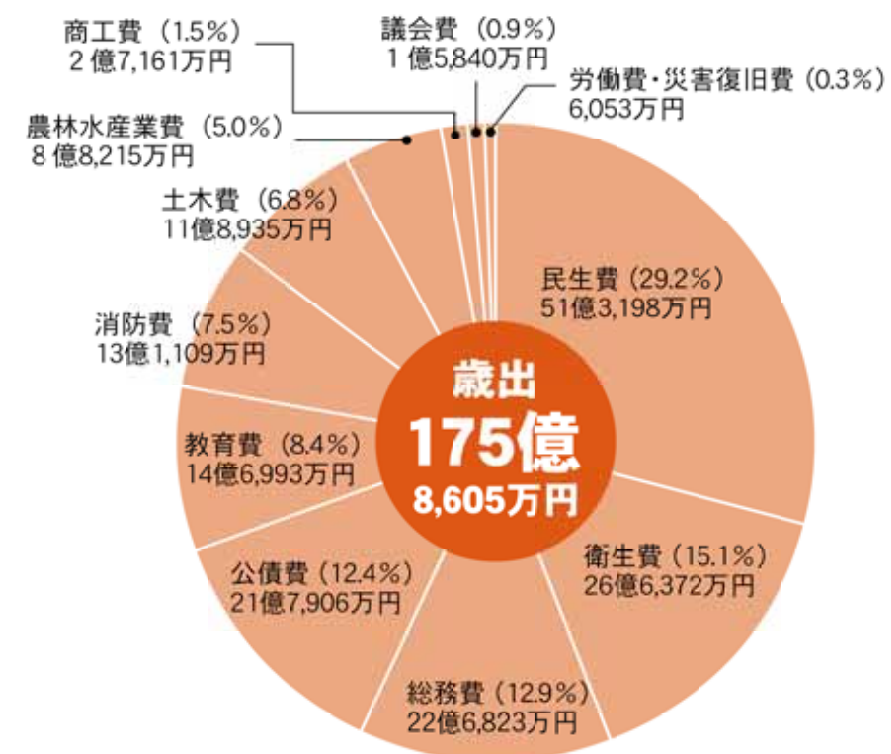


市の会計全体の収支を合算し、市全体の財政運営の悪化の度合いを示すもの。特別会計や水道事業会計を加えても、①の実質赤字比率と同様に黒字なので、赤字の比率は出てきません。



平成23年度一般会計の歳入は、184億1,197万円（前年度比96%）となりました。歳入の約43%を占める市税は、法人住民税が持ち直しの傾向にあるものの、個人住民税は個人所得の減により、2年連続で減額となりました。

市税全体では、前年度とほぼ同額でした。歳入全体では、3年連続で減額となりました。市債（借入）については、厳しい財政事情の中、相良消防庁舎の建設着手や、主要幹線である山の手幹線（深谷橋）の整備などの実施のため、増額（前年度比123%）となりました。



歳出は、175億8,605万円（前年比98%）となりました。消防広域化事業や緊急に実施した津波防災対策などで増額したものの、積立金の減などにより歳出全体では減額となりました。

借金の返済の負担の重さを示す実質公債費比率が県下最下位のため、平成18年度に定めた適正化計画に基づき、事業を実施しました。事業の選択などにより、歳入に見合った歳出になるよう健全な財政運営に努めていきます。  
\*主要事業は、4、5ページ参照。

歳入（収入）

歳出（支出）